

今回のテーマ

がん治療について

前は先進医療についてご案内させていただきましたが、今回はがん治療についてお伝えいたし
がんの治療も現在多くあり、治療方法も年々変化しております。

がん入院治療は年々短期化、通院治療は増加しております。

部位	平成8年	平成11年	平成14年	平成17年	平成20年
胃	47.1	41.8	38.7	34.6	26.8
結腸	37.1	37.2	30.7	27.8	18.9
直腸S状 結腸移行部 及び直腸	45.6	42.2	37.6	33.6	19.7
肝臓	38.4	33.2	29.6	26.9	22.4
肺	50.1	44.8	38.8	34.1	27.2
乳房	36.1	30	25.2	17	15.5
子宮	42.2	34.9	30.9	21.6	17.1
悪性 リンパ腫	72.4	63.5	51.2	37.5	34.9
白血病	68.9	65.3	64.3	57.9	52.1
その他	47.7	39.4	33.7	28.5	24.2

単位：日

全ての部位に
おいて入院日
数が減少して
おります。今後
も入院日数が
短期化していく
可能性があります。

がん通院治療は長期化することも・・・

がんの通院治療は長期化する傾向があり、全体の約8割の方が1年以上通院を続けています。
また、全体の約3割の方は5年以上通院しています。

がんの通院治療の長期化には、近年の化学療法の薬剤開発が大きくかかわっており、分子標的薬や抗体医薬
といった治療効果の高い抗がん剤の開発も要因の1つになっています。

がん治療の通院治療期間別の割合

1年以上になる割合が非常に多いようです。



今回はがん治療の入院日数、通院日数についてしてみました。日に日に変化するがん治療に現在の保
険の内容があっているのかご確認いただけたら幸いです。内容等詳細については、具体的な相談に応じ
ますので、お気軽に声をかけてみてください。

<担当：西丸保幸>